

# 「2022年度 第2四半期決算概要」

2022年11月8日

## 1. 2022年度2Q連結業績概要

## 2. 2022年度業績見通し

## 3. 中期経営計画見通し

## 第2四半期 業績概要

- 上半期は自動車減産・費用増等の影響があったが、**1台当たり搭載金額増加**や固定費管理徹底で**営業利益率10.3%を達成**

## 業績見直し 修正

- 為替の前提は見直したが、通期業績は変更なし
- **費用増、自動車生産調整は想定**するも単価見直しに傾注
- 今期の**配当見込額は据え置き(62円/株)**

## 中期経営計画 見直し

- **定量目標(FY2025/3)は堅持**

## 1. 2022年度2Q連結業績概要

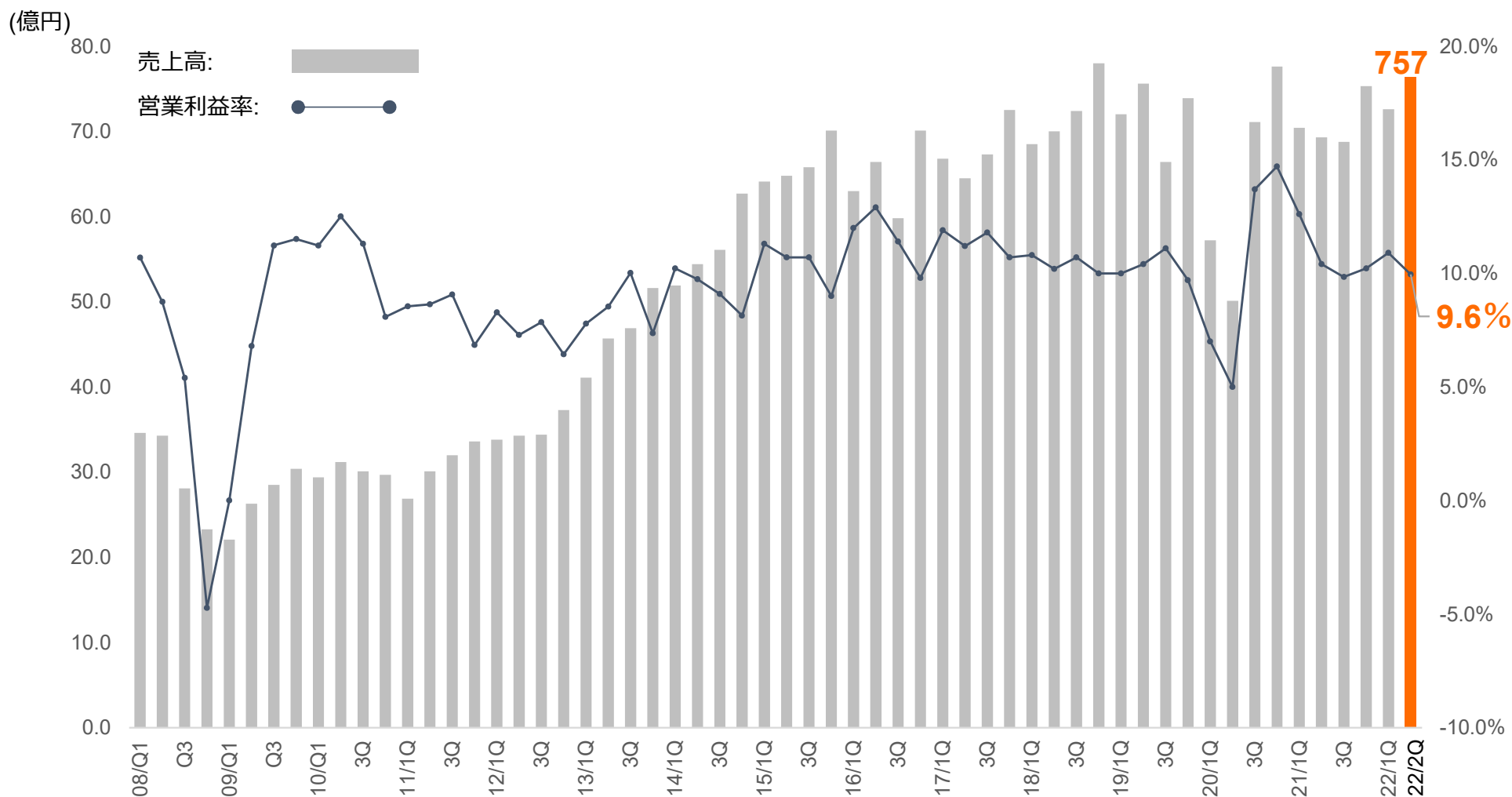
## 2. 2021年度業績見通し

## 3. 中期経営計画見通し

# 1. 決算ハイライト

## 難しい事業環境が続く中で、概ね二桁の営業利益率を堅持

- 円安の影響もあり、売上高は高い水準を維持
- インフレや生産回復遅れ等はあるも営業利益率は概ね二桁、収益性を堅持



## 前年同期比では増収増益を達成

- 韓国系ビジネスの好調および円安等により前年同期比で、増収 (+9.3%)  
営業利益ベースで増益(+1.5%)
- 前四半期比では、増収(+4.2%)なるも全般的な費用増等により減益(-8.1%)

	2021年度		2022年度	
	Q2	Q1	Q2	前年同期比
売上高	693億円	726億円	<b>757億円</b>	+9.3%
営業利益	72億円	79億円	<b>73億円</b>	+1.5%
営業利益率	10.4%	10.9%	<b>9.6%</b>	-0.8pts
当期純利益 <sup>1)</sup>	58億円	80億円	<b>58億円</b>	+0.3%
一株当たり 四半期純利益	57.07円	80.22円	<b>57.90円</b>	+1.4%
想定為替	1ドル=107.8円 1ユーロ=129.9円	1ドル=116.3円 1ユーロ=130.4円	<b>1ドル=123.1円</b> <b>1ユーロ=134.4円</b>	1ドル=+15.3円 1ユーロ=+4.5円

### 3. 2022年度上期連結業績概要

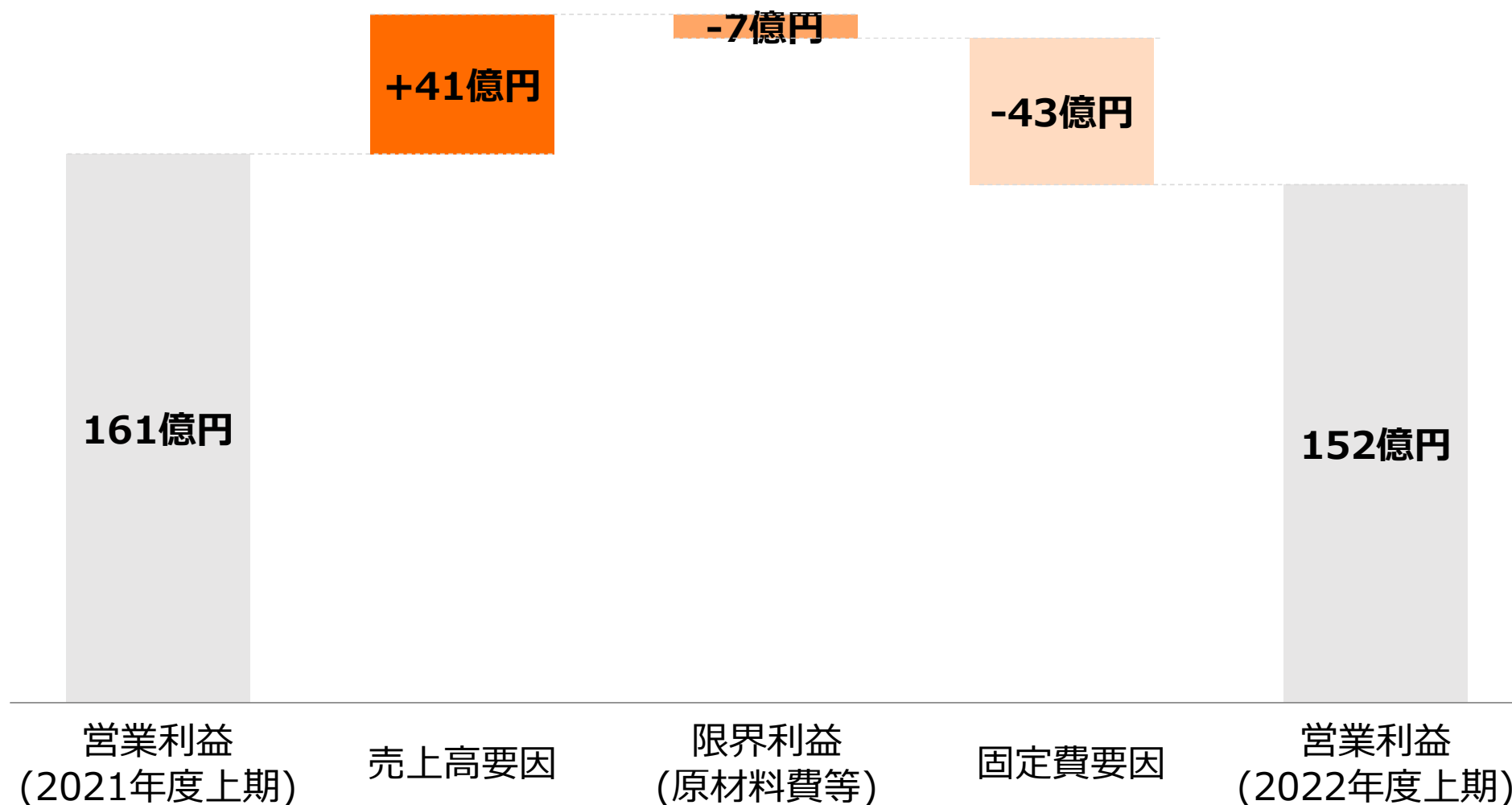
## 前年同期比で増収減益。営業利益率は10.3%と引き続き堅調

- 円安、韓国事業の好調等により前年同期比で増収も、原材料・人件費等インフレに伴う費用増で前年同期比で減益。但し、利益率は2桁を堅持

	2020年度	2021年度	2022年度	
	上期	上期	上期	前年同期比
売上高	1,075億円	1,397億円	<b>1,484億円</b>	+6.2%
営業利益	65億円	161億円	<b>152億円</b>	-5.3%
営業利益率	6.0%	11.5%	<b>10.3%</b>	-1.2%pts
当期純利益	31億円	119億円	<b>138億円</b>	+16.4%
一株当たり 四半期純利益 <sup>1)</sup>	30.85円	117.19円	<b>138.10円</b>	+17.8%
為替実績	1ドル=108.2円 1ㄱ-□=119.3円	1ドル=107.8円 1ㄱ-□=129.9円	<b>1ドル=123.1円</b> <b>1ㄱ-□=134.4円</b>	1ドル=-+15.3円 1ㄱ-□=+4.6円

## 営業利益増減分析

- 円安、韓国事業好調、原単位増等による増収が営業利益の増加を牽引
- 生産回復に伴い人件費等固定費が増加しているが予算内で適切にコントロール





# 欧州を除く全地域で増収を達成 (海外セグメントは1-6月)

- 中国はロックダウンが影響あったがその後の回復が強く、前年同期比増収を達成
- 欧州市場は不透明感があり、前年同期為替影響あるも減収

	2021年度(上期)	2022年度(上期)	前年同期比	主な変動要因
<b>連結</b>	1,397億円	1,484億円	+6.2%	
<b>合成樹脂</b>	1,261億円	1,333億円	+5.6%	
<b>日本</b>	352億円	357億円	+1.4%	
<b>北米</b>	301億円	327億円	+8.8%	需要は堅調
<b>欧州</b>	187億円	184億円	-1.4%	欧州市場は需要の不透明感が強い
<b>アジア</b>	422億円	464億円	+10.1%	韓国事業が好調を維持
<b>中国</b>	136億円	149億円	+9.6%	ロックダウンの影響あるも回復は強い
<b>ベッド</b>	135億円	151億円	+11.6%	ベッド事業は好調を維持
<b>日本</b>	75億円	83億円	+10.7%	
<b>アジア</b>	60億円	68億円	+12.6%	

## アジア、ベッド事業は好調も、欧米の回復の遅れから前年同期比で減益

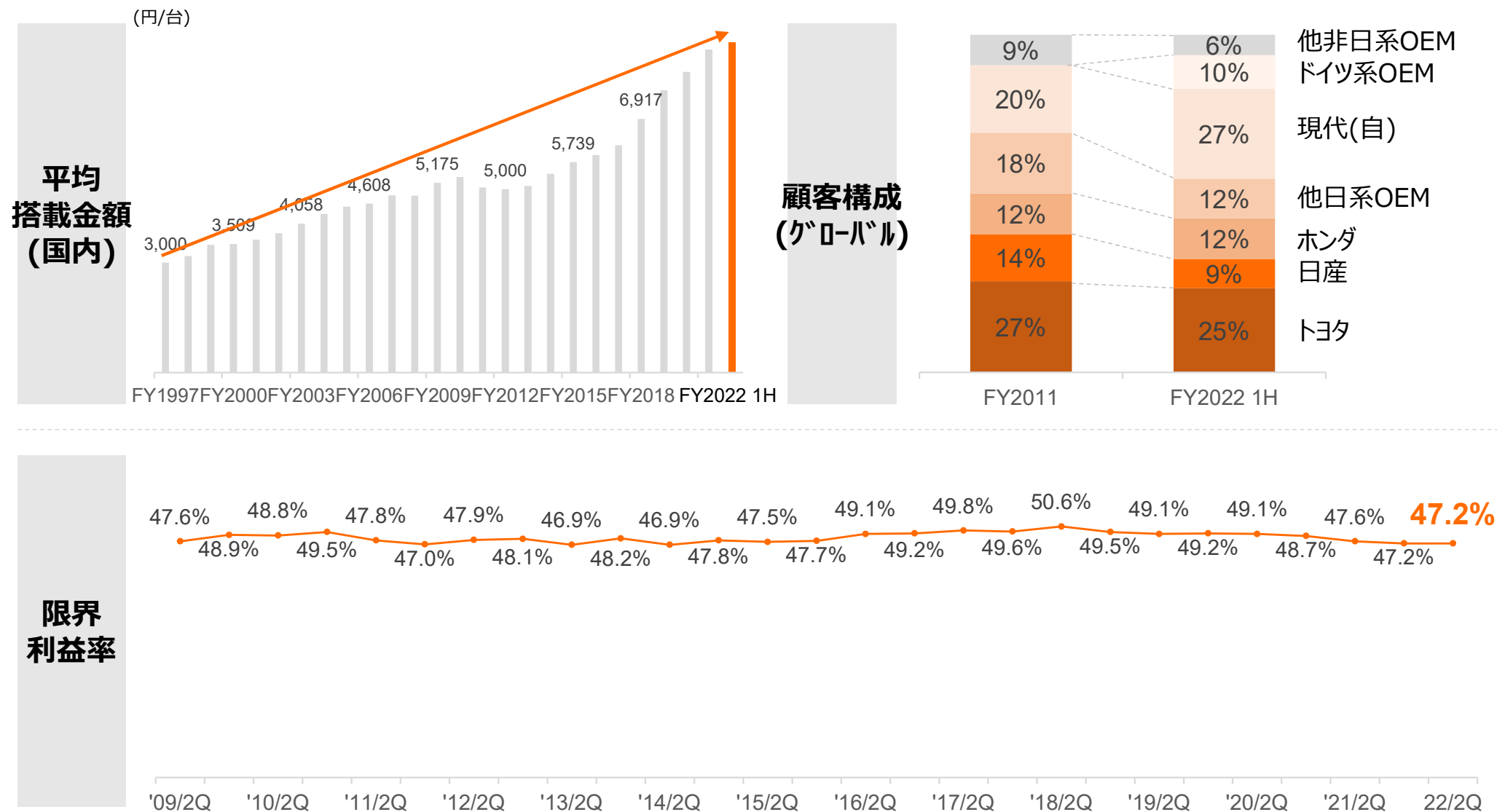
- コスト上昇傾向も、アジア・ベッド事業はマネージされ増益・高収益を維持
- 欧米は収益回復が遅れており前年同期比で減益、収益性も低位にとどまる

	2021年度(上期)	2022年度(上期)	前年同期比	主な変動要因
<b>連結</b>	161億円 (11.5%)	152億円 (10.3%)	-5.3%	
<b>合成樹脂</b>	162億円 (12.9%)	151億円 (11.4%)	-6.7%	
<b>日本</b>	57億円 (16.3%)	53億円 (14.8%)	-7.6%	
<b>北米</b>	12億円 (4.0%)	9億円 (2.8%)	-22.0%	一部拠点の品質問題あり
<b>欧州</b>	14億円 (7.7%)	6億円 (3.4%)	-56.0%	電気代等のエネルギーコスト増が顕著
<b>アジア</b>	79億円 (18.7%)	83億円 (17.9%)	+5.4%	
<b>中国</b>	22億円 (16.5%)	25億円 (16.6%)	+9.9%	ロックダウン後の回復が強く利益率も維持
<b>ベッド</b>	24億円 (17.6%)	25億円 (16.4%)	+4.3%	コスト増の影響あるも依然高収益
<b>日本</b>	11億円 (14.1%)	11億円 (13.6%)	+6.5%	
<b>アジア</b>	13億円 (21.8%)	13億円 (19.9%)	+2.4%	

## 7. 顧客基盤(1台あたり平均搭載金額および顧客構成)

# 平均搭載金額増加と顧客多様化が進展。限界利益率は高水準で推移

- 日系・韓国系・欧州系等幅広い顧客を有し、今期も平均搭載額が増加継続
- 限界利益率は40%台後半で推移。足元は材料費増で低下



1. 2022年度2Q連結業績概要

**2. 2022年度業績見通し**

3. 中期経営計画見通し

## 8. 2022年度見通し(見立て)<sup>1</sup> 為替前提を見直し

- 為替動向を踏まえて、為替の前提を見直し(128円/ドル、136円/ユーロ)
- 生産回復の動向や価格適正化の進捗等も踏まえた見立て

		前回(8月)		今回		
		対象期間	想定	対象期間	想定	
国内	需要	2022/7 ~2023/3		2022/10 ~2023/3		<ul style="list-style-type: none"> <li>• サプライチェーン問題の生産回復への影響を注視</li> </ul>
	供給					<ul style="list-style-type: none"> <li>• インフレ継続と見立て</li> </ul>
海外	需要	2022/4 ~2022/12		2022/7 ~2022/12		<ul style="list-style-type: none"> <li>• サプライチェーン問題の生産回復への影響を注視</li> </ul>
	供給					<ul style="list-style-type: none"> <li>• インフレ継続と見立て</li> </ul>
為替			123円/ドル 134円/ユーロ		128円/ドル 136円/ユーロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• +5円/ドル</li> <li>• +2円/ユーロ</li> </ul>

## 通期見通しについては、変更なし

- 為替の前提は見直すも、通期の見込みについては変更なし  
(米ドル: 128円/ドル、ユーロ: 136円/ユーロ)

	2021年度	上期	2022年度	達成率
	上期		通期計画	
売上高	1,397億円	<b>1,484億円</b>	3,050億円	48.7%
営業利益	161億円	<b>152億円</b>	315億円	48.2%
営業利益率	11.5%	<b>10.2%</b>	10.3%	-
経常利益	170億円	<b>203億円</b>	305億円	66.7%
当期純利益	119億円	<b>138億円</b>	200億円	69.2%
一株当たり 四半期純利益 <sup>1)</sup>	117.19円	<b>138.10円</b>	199.66円	69.1%

## 安定した顧客構成と、供給課題・コスト増には機敏に対応

- 自動車生産動向や原材料費等事業環境の不確実性に対して、固定費管理等対応策を徹底。
- また、好調なベッド事業でのカバー等グループ全体でのリスク軽減を図る。

### リスク要素

### 状況 / 対応

#### 需要

- サプライチェーン問題に伴う自動車生産調整の長期化

- **多様な顧客構成によるリスク軽減**  
(韓国系OEMは堅調、ベッド事業堅調)

#### 供給

- 自動車生産回復時の増産対応
- 海上輸送の需給ひっ迫

- 増産時の**生産キャパシティを確保**
- グローバルでの最適生産

#### コスト

- 原材料費の高騰
- 人件費、エネルギーコスト等費用増加

- **価格適正化の取り組み**推進
- **経費削減・固定費管理の徹底**

## 11. 設備投資と減価償却費

# 設備投資は計画に対して抑制も前年並みを維持

- 欧米地域が不振の為、営業CFおよびフリーCFは前期比マイナスとなる。
- キャッシュフロー重視の経営を継続

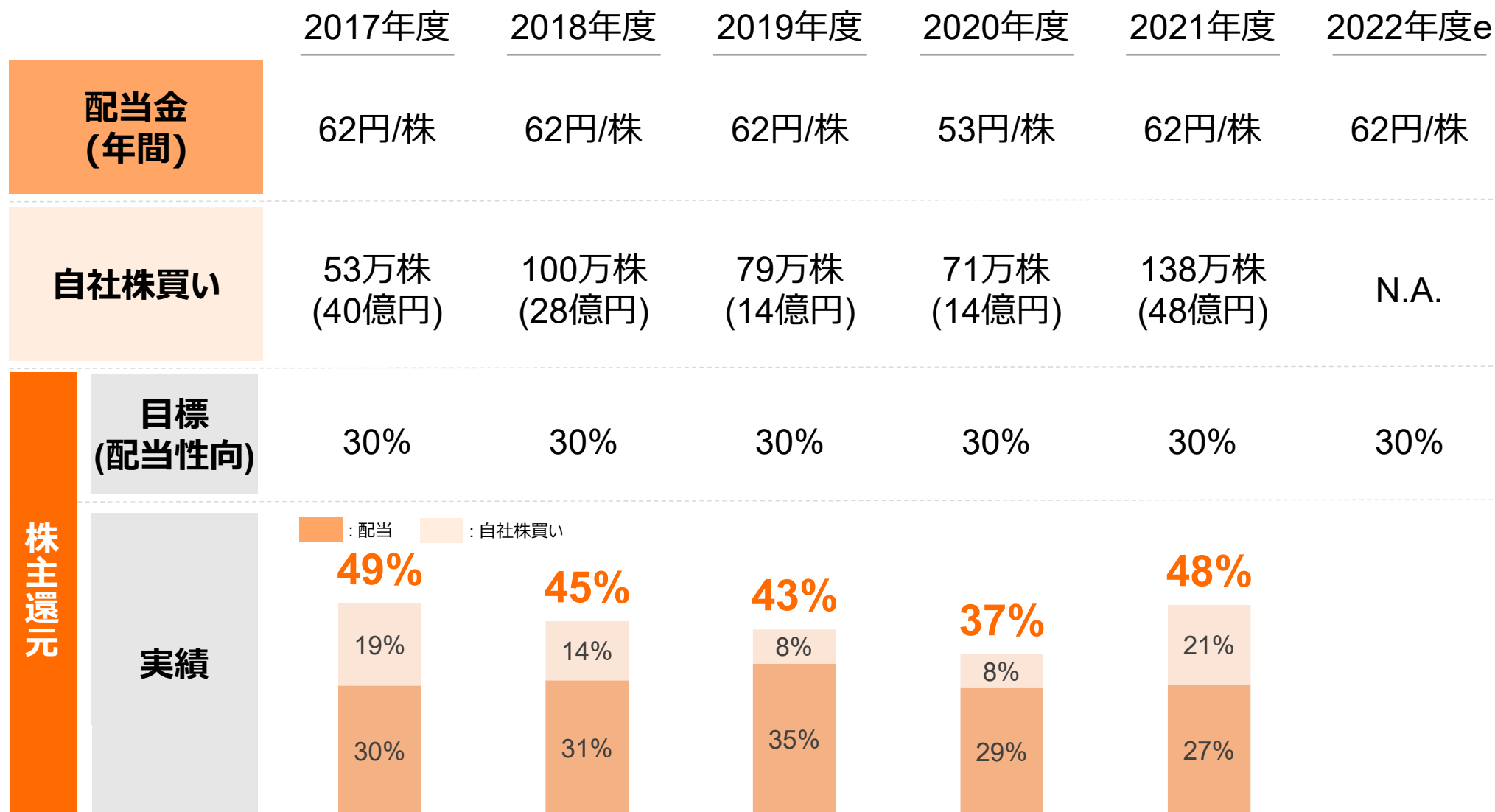
	2021年度(1H)	2022年度(1H)	増減	2022年度計画
設備投資額	41億円	40億円	-1億円	<b>131億円</b>
減価償却費	62億円	66億円	+4億円	<b>130億円</b>
研究開発費	13億円	18億円	+5億円	<b>28億円</b>
営業CF	189億円	156億円	-33億円	<b>384億円</b>
投資CF	-54億円	-74億円	-20億円	<b>-131億円</b>
フリーCF	135億円	82億円	-53億円	<b>253億円</b>
財務CF	-73億円	-50億円	-23億円	<b>-147億円</b>
現預金残高	1,042億円	1,205億円	+163億円	<b>1,199億円</b>



## 12. 株主還元

# 配当と自社株買いで、近年株主総還元は30%を上回る実績

- 配当性向30%をコミットメントとし、安定配当を実施。
- 加えて、近年は機動的に自社株買いを行うことで、配当性向目標を上回る株主還元を継続的に実現



※当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2017年の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「配当金」を記載しております。

1. 2022年度2Q連結業績概要

2. 2022年度業績見通し

3. 中期経営計画見通し




# 自動車生産動向の変動はあるも需要は堅調。従来の中計目標を堅持

- 自動車部品はFY2023販売車種への営業活動は想定通りの進捗
- ベッド事業は中国・東南アジアで高品質マットレスに対して力強い需要




FY2022以降の見立て

中計目標(FY2024)

自動車

-  **自動車生産の正常化**
-  軽量化、安全系の樹脂製への需要は引き続き増加
-  コロナ等起因のサプライチェーン問題

ベッド

-  **中国・東南アジアでの堅調な需要増加**
-  高品質マットレスへの需要増
-  巣ごもり需要、ホテル向けの動向

売上	3,300億円
営業利益	380億円
営業利益率	11.5%
当期純利益	265億円



本資料に記載されている情報には将来の見通しに関するものが含まれています。これらには現在入手可能な情報をもとにした判断が含まれており、リスクや不確実性が含まれています。今後の経済状況、事業環境の変化などにより将来の見通しが大きく変わる可能性があるため、将来の見通しに関する情報が正確であること、または記載した情報どおりになる事を当社が保障するものではありません。また、これらの情報は投資家の方々へ当社の状況や今後の考え方を伝えることを目的としており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。